

■隣人……。

ある善良そのもの高齢者がノイローゼになった。その原因は新しく引っ越してきた隣人との関係である。その隣人には小さい子どもが二人いた。引っ越して来るなりいきなり「子どもを預かってくれ」と言って夫婦はよく出かけた。

その高齢者は足腰が弱っている上に腰痛を始め様々な体の不調に苦しんでいた。しかし「隣の人は引っ越してきたばかりで大変だろう」と老体にむち打って子どもの世話をした。ところが子どもを預けて何処かに行くということはいつになっても改まらない。それどころか子どもの方も自分からドンドンとその高齢者の家に自由に出入りするようになってしまった。そうすると親は「お願いします」の挨拶もなくなった。

そのうちに家の中からお金がなくなり出した。

そんなこんなで男性の方の高齢者は病気になってしまった。そこで思い切って奥さんは隣人に、「高齢で体がきつくて子どもの世話はできない」ということを遠回しに伝えた。

しかしいっこうに子どもの自由な出入りは改まらない。ものもどンドンなくなり出す。「夫が病気になっているので」と言っても態度は改まらない。そこで遂にお金がなくなるということ婉曲に言い出した。

するとその隣人夫婦は「隣人を疑うのですか？」と感情的恐喝が始まった。疑われたということで、今度は自分達を被害者に仕立て上げ、「あなた達はそれでも人間ですか」というように感情的恐喝が酷くなった。

そうして奥さんもノイローゼになってしまった。

この高齢者には隣人のするようなことが想像できなかった。この高齢者が隣人と同じタイプの人間ならこんな事件は起こさなかった。

「隣人のために」と思わないで、断った。

そしてこんなトラブルは起きなかった。

質(たち)の悪い人は質の悪い人がすることが分かる。だから酷い目に遭わない。

■やっぱり、やさしい人はいなくなっていく……。

本当にたくましい人とは、どのような種類のトラブルにも、どのような種類のストレスにも、どのような種類の失敗にも、どのような悔しさにも、決して負けない人である。

踏まれても、踏まれてもなお生えてくる雑草のような人である。

私の友人が酒を飲みながら「強くなければ生きていけない。でもやさしくなければ生きている意味がない」とよく口にしていた。彼は五十五歳で倒れて、六十歳で他界した。

彼は心のやさしい人だった。学問的には極めて優れてもいた。しかし雑草の強さがなかった。つまりやさしい人だが、たくましい人ではなかった。

たくましい人とはやさしくてもこの世俗の中で生きていられる人である。

私はその彼と共通の友人がいる。共通の友人と会って他界した友人の話になった時に、友人は「オレはしぶとく生き残る」と言っていた。

■こんなタイプには戸惑う……。

搾取タイプの人から好意を受けると、「こいつを脅せばもっと取れる」と思う。

つまり親切をすることは相手の搾取を呼ぶようなことなのである。そこで脅し、すかし恐喝など取るためのことは何でもする。

そこで驚いてももう遅い。相手は狙った獲物を徹底的に搾り取ろうとする。

「恩を仇で返す」という格言がある。これは親切とか好意が理解できる人々の世界の言葉である。

・・・

しかし人に恩を施したことの無い人は、「恩をうけた」

とか「あの人の恩になった」ということが分からない。そういう感覚がない。

「恩を仇で返す」人は、恩を受けた時に、「こいつは搾り取れる」と思ったのである。「こいつから甘い汁を吸おう」と思ったのである。

恩を施せば「私から甘い汁を吸えますよ」というメッセージになってしまう。だから恩を施したがために一生立ち上がれないほど痛めつけられる人もいる。